

## バイオマス発電事業に関する金融機関の方針まとめ

### 銀行

#### ➤ 三井住友フィナンシャルグループ

(方針)

木質バイオマス発電事業(※1)の新設及び拡張案件に対しては持続可能な燃焼材(※2)が使用されることを確認の上、支援を行います。

また、上記事業を含むバイオマス発電事業に資金が向かう案件については、GHG排出の緩和策などの環境社会配慮がなされているか注視し、支援を検討する際には環境社会リスク評価を実施します。

※1 木質バイオマス発電事業とは木質バイオマス専焼のみならず、混焼も含む

※2 持続可能な燃焼材とは未利用材・製材残渣を含め原生林由来ではないこと、地域住民等の人権侵害を行っていないことが確認できる燃焼材のこと

(セクター・事業に対する認識)

バイオマス発電事業を含む脱炭素社会への移行に資する事業については積極的に支援を検討しています。一方で、木質バイオマス発電では発電燃料となる燃焼材の製材過程において原生林の伐採や人権侵害が行われていないことを確認することが重要となります。

同社ウェブサイト「サステナビリティ方針・推進体制 セクター・事業に対する方針」

URL: [https://www.smfg.co.jp/sustainability/group\\_sustainability/](https://www.smfg.co.jp/sustainability/group_sustainability/)

#### ➤ 三菱 UFJ フィナンシャルグループ

バイオマス発電は、再生可能エネルギーとしてクリーンなエネルギーの供給に資する一方で、その燃料が生産、加工される過程での環境・社会への影響を考慮する必要があることをMUFGは認識しています。例えば、木質バイオマス発電では、発電燃料となる燃焼材の製材過程において原生林の伐採が行われていないことや、地域社会における人権への配慮等の確認が重要です。

バイオマス発電所や、バイオマス発電に使用する燃料の加工事業に対する新規のファイナンスの実行を検討する際には、燃料の食料との競合や、持続可能性、ライフサイクル温室効果ガス等、お客さまの環境・社会配慮の実施状況を確認します。

URL: <https://www.mufig.jp/csr/policy/index.html>

同社ウェブサイト「方針/ガイドライン MUFG 環境・社会ポリシーフレームワーク」

URL: <https://www.mufig.jp/csr/policy/index.html>

※下線部が2025年4月の改定で追加された。

URL: [https://www.mufig.jp/dam/updates/pdf/250401\\_ja.pdf](https://www.mufig.jp/dam/updates/pdf/250401_ja.pdf)

#### ➤ みずほフィナンシャルグループ

(対象)

- 木質バイオマス専焼発電所を運営する企業

**(認識すべきリスクの概要)**

- 木質バイオマス発電には、燃料生産時に大規模な森林伐採や泥炭地の開発が行われたり、遠隔地から燃料を輸入したりする場合、ライフサイクル全体での温室効果ガス排出量が大きくなるリスクがあります。
- 木質バイオマス燃料の生産には、大規模な森林伐採によって生態系への影響や生物多様性の毀損が発生するリスクがあります。
- 木質バイオマス燃料の生産には、森林伐採に伴う先住民族の権利の侵害、安全・衛生的に問題のある労働環境、周辺環境の破壊に伴う地域住民とのトラブルなどの人権侵害や、食料生産のような重要な土地利用との競合が発生するリスクがあります。

**(方針)****その他の方針**

- 負の影響を防止・軽減するため、「認識すべきリスク」を踏まえて取引先の対応状況を確認したうえで、取引について判断します。
- 上記のリスク検証の果、取引先が環境・社会課題に適切に対応していないことによって、取引先の事業継続に重大な影響があることが判明した場合、投融資等を行いません。

同社サステナビリティレポート「サステナビリティ プログレス 2024」(2024年4月12日)

URL: [https://www.mizuho-fg.co.jp/sustainability/report/pdf/sus\\_progress\\_2024.pdf](https://www.mizuho-fg.co.jp/sustainability/report/pdf/sus_progress_2024.pdf)

➤ 三井住友トラストグループ

**<認識すべきリスク>**

木質バイオマス発電は、以下のような観点で、環境・社会に負の影響を及ぼすリスクが発生する可能性がある。

- 使用燃料の原料となる木材（未利用材・製材残渣含む）などの調達過程における原生林の伐採といった環境破壊
- ライフサイクル全体での温室効果ガスの排出
- 原料調達、燃料製造、発電における先住民・地域住民に対する健康被害や居住地域への影響・安全性、及び児童就労といった人権侵害

**<方針>**

バイオマス発電事業を含む脱炭素社会への移行に向けた取組みについては積極的に検討していく。

一方、木質バイオマス発電事業に対するファイナンスは、上記の<認識すべきリスク>を確認し、環境・社会配慮の実施状況を適切に評価した上で取組判断を行う。

適切な対応がなされていないことが判明した場合には、取引先に対して改善に向けた対応を求め、改善策が不十分である場合は取り組まない。

また、既にファイナンスを取組んでいる石炭火力発電事業において、木質バイオマス混焼への転換を行うなどの脱炭素化に向けたトランジションを目指す取引先のプロジェクトについては、リスク認識を踏まえた環境・社会配慮の実施状況を適切に評価した上で支援していく。

同社「気候変動レポート 2024/2025」(2024年12月26日)

URL: [https://www.smtg.jp/-/media/tg/sustainability/report/2024/climate\\_all.pdf](https://www.smtg.jp/-/media/tg/sustainability/report/2024/climate_all.pdf)

## 生命保険会社・損害保険会社

### ➤ 明治安田生命保険相互会社

「温室効果ガスの排出により気候変動への影響が大きい石炭火力発電プロジェクトや、企業向けの石炭火力発電設備の新設・更新、パーム油（パーム椰子殻）、輸入木質チップを燃料として使用するバイオマス発電所の新設・更新等を使途とする投融資は原則取り組まない方針としています。」

[https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/sustainability\\_report/pdf/sustainability\\_report\\_2023.pdf](https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/sustainability_report/pdf/sustainability_report_2023.pdf)

同社「サステナビリティレポート 2023」

URL: [https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/sustainability\\_report/pdf/sustainability\\_report\\_2023.pdf](https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/sustainability_report/pdf/sustainability_report_2023.pdf)

個別の問い合わせにより、木質ペレットを燃料とする発電所も含むと確認済。

### ➤ 第一生命保険株式会社

バイオマスは、再生可能なエネルギー源としての発電燃料として使用されることから、化石燃料からの脱却に向けた重要な資源として注目されています。一方で、燃料調達などにおいて、以下のような環境・社会への影響に留意する必要があると認識しています。

- 環境への影響：バイオマスを原料とする発電事業において、パーム油由来の原料や木質ペレットなどが使用されていることから、これらの燃料の生産や調達にあたり、森林破壊や生態系の棄損などの環境への悪影響が生じるリスク
- 社会への影響：バイオマスを原料とする発電事業において、原料の生産や調達にあたり、森林伐採や農園の開発に伴う先住民族の権利の侵害などの人権侵害が生じるリスク

上記のような環境・社会へのリスクを踏まえ、バイオマスの生産・調達プロセスにあたり環境・社会に与える影響が適切に配慮されていることを確認の上、投融資判断を行うとともに、投融資後は定期的なモニタリングやエンゲージメントを施します。

同社「責任投資活動報告 2024」

URL: [https://www.dai-ichi-life.co.jp/dsr/investment/pdf/ri-report\\_015.pdf](https://www.dai-ichi-life.co.jp/dsr/investment/pdf/ri-report_015.pdf)

### ➤ 日本生命保険相互会社

- 企業の移行計画の評価の際に、「バイオマスに関しては、発電時だけでなく、生成・輸送段階を含むライフサイクルでの GHG 排出量に配慮する必要がある（ライフサイクルで 100gCO<sub>2</sub>/kWh 以下が目安）。」
- 「また、DASH 原則の延長として、「生物多様性の豊富な土地を転換した場所で生産した原料を使わない」、「炭素量の多い土地を転換した場所で生産した原料を使わない」、「華燭の材料を使ったバイオマス発電は行わない」といった観点への配慮にも留意」と記載。

同社「日本生命トランジション・ファイナンス実践要領」（2024年6月11日発表）

URL: <https://www.nissay.co.jp/news/2024/pdf/20240611.pdf>

### ➤ MS&AD ホールディングス

(保険引受・投融資に関して)「サステナビリティを考慮した事業活動」

**【自然資本の持続可能性向上】**

「国内のバイオマス発電所の新規建設」について、「自然資本や地域社会に負の影響を与える可能性があるため、取引先の環境への配慮状況等を踏まえ、慎重に取引の可否を判断し、課題が発見された場合は解決に向けたソリューションを提案します。」また、「環境等への影響を事前に確認し、生態系への影響が大きい場合には、グループのMS & ADインターリスク総研の知見を活かし、事業中断リスクや自然災害リスクの低減に向けたソリューションを提案」するとしている。

同社ウェブサイト「MS&AD インシュアランス グループのサステナビリティの考え方」

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/summary/materiality.html>

同社プレスリリース「サステナビリティの考え方の改定について」(2024年12月6日)

URL: [https://www.ms-ad-hd.com/ja/news/irnews/irnews-20241206/main/00/link/20241206\\_Revision%20of%20Business%20Activities%20with%20Consideration%20for%20Sustainability.pdf](https://www.ms-ad-hd.com/ja/news/irnews/irnews-20241206/main/00/link/20241206_Revision%20of%20Business%20Activities%20with%20Consideration%20for%20Sustainability.pdf)

同社「ESG 課題へのアプローチ (実務プロセス)」

URL: [https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/main/05/teaserItems1/00/link/ESG\\_Process\\_ja.pdf](https://www.ms-ad-hd.com/ja/csr/main/05/teaserItems1/00/link/ESG_Process_ja.pdf)